

目 次

はしがき

序 論	世界の中の日本法	1
1	世界の法——フランス・ドイツとイギリス・アメリカの法の比較	4／
2	ハイブリッド（混合的）な日本法	19／ 3 本書の概要 23
第 1 章	日本法の概要と分類	27
1	日本法の分類	27／ 2 法を見る法哲学の視座 32
第 2 章	欧米と日本の立憲主義	37
1	基本的人権の保障——日本とドイツの比較	38／ 2 日本の権力分立とアメリカ・イギリスの権力分立 45／ ま と め 58
第 3 章	日本の民法——「市民社会」と「家族」のはざままで	61
1	民法における家族法——「公法」と「私法」をめぐって	62／
2	近代「市民社会」と民法——総則と財産法の概観	66／ 3 「家族」と近代民法——問題の歴史 81／ 4 家族法の現在 92
第 4 章	日本の刑法——罪刑法定主義の問題史	104
1	現代日本の刑事政策——厳罰化と被害者感情	104／ 2 罪刑法定主義 106／ 3 近代刑法の思想と歴史——「学派の争い」と現行刑法の成立 116／ 4 罪刑法定主義の現在——問題としての被害者感情 128

第5章 法の担い手——日本と欧米の法律家制度…………… 137

- 1 日本における法の担い手——弁護士人口の増大とアメリカへの接近? 138／2 日本の裁判官、検察官——イギリスとの比較 145／
3 司法制度改革 154／ま と め 160

第6章 民事裁判と刑事裁判
——日本人の法意識、裁判員制度と陪審制…………… 163

- 1 民事裁判 164／2 刑事裁判と裁判員制度 172／
ま と め 186

第7章 法思想史、法哲学への誘い——まとめにかえて…………… 188

- 1 法思想史の3本の柱——自然法思想・法実証主義・歴史法学 189／
2 法概念論 201／3 法化社会と法的思考 208／
ま と め 212

主要参考文献

索 引

《コーヒーブレイク》

- 1 法学を学ぶ様々な視点／2 フェミニズム／3 多すぎる? アメリカの弁護士／4 イギリスの刑事裁判と弁護士／5 正義論

《日本法へのガイド》

- 1 行政法／2 自由権と社会権／3 概念法学と自由法論／4 インステイトゥーティオーネス方式とパンデクテン方式／5 刑罰と損害賠償（刑事制裁と民事制裁）／6 近代刑法の諸原理と「犯罪」の定義／7 憲法訴訟